

# 想像とコミュニケーションの力

大田市立第一中学校 1年 石田 椋乃



今年の6月24日に、これまで原則禁止とされてきた、中学生による携帯電話の学校への持ち込みを、条件付きで文部科学省が認めました。認めた理由として、「緊急時の対応」や「防犯面で有効だから」ということを挙げていました。しかし、ネットでの誹謗中傷やLINEによるいじめが問題となっている今、私はスマホを持つことに不安を感じています。

先日、警察の方が来校され、防犯教室が開かれました。その際スマホを持つことで起こり得る犯罪被害についていろいろなことを教えていただきました。例えば、「不正なアプリを入手することで、個人情報が出てしまうこと」です。ネットは全世界に広がっており、流出した個人情報を削除することはほぼ不可能です。他にも、「コミュニケーションアプリを出会い目的で利用し、性犯罪などの被害にあってしまうこと」「基本無料のゲームアプリで高額課金をしてしまうこと」などを教わりました。このことから個人情報の流出から金銭面での被害まで、多種多様な犯罪被害が考えられます。このような犯罪被害に巻き込まれないために、私の家庭では、ゲーム機やタブレットに「ペアレンタルコントロール」を行っています。まだ全てを考えて使用することが難しい段階だからこそ、「管理してもらうことの大切さ」を感じています。

最近では、スマホの所持時期が低年齢化しているそうです。2019年時点では、中学生の75パーセント以上がスマホを持っていると言われています。スマホデビューが、「中学入学時」が最多とのこと。中学生になると、親を介さず、子供の友達グループでの行動が多くなります。LINEでのコミュニケーションは当たり前のようになっています。このことから、スマホ＝「友達とのコミュニケーションをとるために持つ」という側面が強いことが分かります。

私はスマホを持っていないため、友達とコミュニケーションをとるためには、電話か相手と直接会って、話をするしかありません。しかし、今回新型コロナウイルスの影響で学校が休校となり、長い間みんなに会えませんでした。その期間に「人と直接会って話すことの大切さ」を改めて痛感しました。電話では声しか伝わらず、メールでは文字しか伝わりません。直接会って話せば、顔が見え表情が分かり、仕草が伝わります。声と文字だけではなく、五感全てを使った記憶が残り、たくさんの思い出も出来るので、より人間関係が強くなると思います。スマホは現代の生活には欠かせないものとなっており、大人になればほとんどの人達が持つようになります。だからこそ今私はまだスマホを手を

ず、直接相手と話すことの楽しさを味わいたいと考えます。

スマホを将来持つにあたって、私は「想像力とコミュニケーション力を高めること」が必要であると考えます。最近、ネットでの誹謗中傷などが社会的に問題になっています。ネット上だと顔が見えないからと、現実よりひどい誹謗中傷をされている様子を目にします。これらは、「相手が現実に存在して生活をしている」という想像力が欠如していることから起こるのだと考えます。

私は、ネットの社会と現実の社会は変わらないものだと考えます。ネットの社会は、現実とは違う仮想の世界のように感じますが、実際には現実とつながっているのです。むしろ、ネットで行っていることは全て記録されていて、問題が生じた時には強力な証拠となり得ます。防犯教室では、情報拡散の怖さについても学びました。後でだれがどう思うのか、本当に信用できる情報なのか、想像してからでないかと危険であり、「想像することの大切さ」について考えさせられました。現実の世界でも、情報や言葉は色々な想像力を働かせて受け取るものです。「相手に喜んでもらう」「だれかの助けになる」「先手を打つ」「起こるであろう危機をあらかじめ回避する」など想像力があるから成せることであると考えます。犯罪の被害者にも、加害者にもならないために、想像力とコミュニケーション力は必要不可欠です。

以上をふまえて、「他人に対して面と向かって言えないようなことは、書かない」という意識が大切であり、これからも「他人を傷付けない」という気持ちをもってスマホやSNSと向き合っていくべきだと考えます。その時その時の自分の正しい判断が、犯罪防止につながることを、中学生みんなが知ることも大切だと考えます。

私はこれから防犯教室で学んだSNSとの付き合い方や想像することの大切さを意識して、自分で自分を守り、豊かなコミュニケーション能力を身につけて、人との関わりを深め、毎日の生活を充実させていきます。